

4章

地域公共交通に関する課題抽出

4章 地域公共交通に関する課題抽出

■現状分析及び各種アンケート調査からみえる課題

公共交通の現状や地域特性

【公共交通の現状】

- 市内の交通は、鉄道（1路線）、高速バス（4路線）、巡回バス（6路線）、市民病院シャトルバス、タクシー（4社）、その他（患者輸送車、スクールバス、民間送迎バス）の多種多様な交通が運行しています。
- いずれの公共交通も新型コロナウイルス感染症拡大に伴い利用者が減少しています。
- 巡回バスと病院シャトルバス（無料）が一部同じ区間を走行しています。

各種アンケート調査

【市民アンケート調査】

- 日常生活の移動は多くが自家用車に依存している傾向であり、公共交通を利用する割合は少ないため、日常生活に即した公共交通の整備が必要となっています。
- 買物や通院の際に、特に運転免許証を持っていない人は外出で困っていることが多く、今後高齢者の増加に伴い、ますます移動に困る人が増えることが見込まれます。
- 車から公共交通への転換需要も見込まれ、高齢者や免許証返納者のための公共交通サービス向上が期待されます。

【交通事業者・関係団体アンケート調査】

<交通事業者>

- 新型コロナウイルス感染症拡大と働き方の変化による利用者の減少に伴い、収支が悪化しているため、路線の廃止などの検討を余儀なくされています。
- 公共交通の担い手不足に伴い、サービス水準の向上は困難な状況のため、現在の資源をうまく維持しながら効率的な運行が余儀なくされています。

<関係団体>

- 山間部の観光地に行くバスがなく、また土日にバスが運行していないため、休日に多くなる観光客の移動により公共交通を利用することができません。（観光協会）
- 新たな発想による事業再構築、DX推進などによるビジネスモデルの変換、先端技術を取り入れた新サービスの開発が求められています。（商工会）
- 買物や外出には地域差があり、郊外に住んでいる人で家族に頼めない場合は不便を感じています。（社会福祉協議会）

【高校生アンケート調査】

- 市内の高校は磯原駅から徒歩圏内ということもあり、晴天時は鉄道以外の公共交通の利用は少なく、雨天時においても家族や知人などの車で送迎が多く、自家用車への依存度が高くなっています。
- 公共交通（巡回バス）の「運行本数」「下校時間帯の便」に不満が多く、増便などの改善を求める声が多くなっています。

【市内企業アンケート調査（企業・従業員）】

- 企業側は自動車通勤に対し補助していることもあり、従業員用の送迎バスを保有している企業は見られません。（4社中）
- 従業員は2交代、3交代制の勤務形態が多く、巡回バスが通勤に適したダイヤとなっていないことや、行き帰りに立ち寄る場所があるため自家用車に頼らざるを得ない。

【地域特性】

- 市域東側は比較的平坦な地形で住宅地、商業・工業・漁業・観光地があり、市域西側は豊かな自然が存在する山間地となっています。
- JR 常磐線の各駅を中心に3つの市街地が形成されています。
- 複数の工業団地が立地しています。
- 人口減少や少子高齢化が進行し、世帯構成が変化しています。

【公共交通利用者アンケート調査】**<鉄道>**

- 定時性の満足度が高く、通勤通学での利用促進が必要となっています。

<高速バス>

- 駐車場はあるが、巡回バスとのアクセスが悪く、バス停まで（から）の移動の改善が求められています。

<巡回バス>

- 60歳以上の方の利用が多く、買物や通院での利用が大半を占めており、乗降も鉄道駅、病院、市役所などで多くなっています。

<路線バス> ※現在は巡回バスで運行

- 運行本数、運行時間帯、乗り継ぎのしやすさについての充実が求められています。

<市民病院シャトルバス>

- 不満の意見は見られないものの、運行本数や運行時間帯の充実が求められています。

<患者輸送車>

- 山間部の方が通院で市街地へ向かうに当たり、公共交通の手段がないため、移動手段を持たない高齢者などにとっては、重要な移動手段となっています。

<スクールバス>

- 登校時は利用時間帯が同じですが、下校時は生徒により異なり分散しています。

**【集客施設事業者アンケート調査
(医療機関・商業施設・宿泊施設)】**

- 宿泊施設、商業店舗周辺や病院周辺にバス停がないため、送迎を出している医療機関や宿泊施設もあるが、便数は限定せざるを得ないため、公共交通の充実が望まれています。

【上位・関連計画】**■地域内交通の充実**

- ・市巡回バスの利便性向上
- ・地域交通利用券のあり方検討

■交通結節点の強化

- ・高速バス利用者の利便性向上

■まちづくりや福祉・環境との連携

- ・コンパクトな都市づくりと一体となった利便性の高い公共交通体系の整備
- ・バリアフリー化の促進
- ・観光周遊のための交通手段との組み合わせによる利用促進
- ・新たな移動手段や次世代車両の導入

【地域公共交通を取り巻く課題】

課題①：各駅を中心とした巡回バスによる移動ニーズに対応したわかりやすい交通ネットワークの確保

課題②：市巡回バスと市民病院シャトルバスとの役割分担の明確化

課題③：山間部等の生活不便地域の解消

課題④：移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の日常の足の確保

課題⑤：公共交通利用への転換利用促進

課題⑥：多様な地域公共交通の連携による利便性の向上

■地域公共交通を取り巻く課題に対する詳細

課題①：各駅を中心とした巡回バスによる移動ニーズに対応したわかりやすい交通ネットワークの確保

- ・市街地は駅周辺に形成され生活利便施設が集まる傾向にあり、また、市民の通勤通学の拠点としての役割を担っているため、駅を中心とし利用者のニーズに合っていない改善を要する路線等の抽出や利用されていない時間帯・バス停の抽出による公共交通サービスの見直しなどによるわかりやすい交通ネットワークの検討が必要です。

課題②：市巡回バスと市民病院シャトルバスとの役割分担の明確化

- ・市巡回バスと市民病院シャトルバスにおいて、同一区間において有料と無料の路線が並行して運行しており、統合など合理化や役割分担等の明確化の検討が必要です。

課題③：山間部等の生活不便地域の解消

- ・市西部の山間部のように既存路線がない地域や市街地の公共交通空白地においては、新たな交通システムの取組みが求められています。

課題④：移動手段を持たない高齢者等の交通弱者の日常の足の確保

- ・市民アンケート調査において、運転免許を持っていない10代や高齢者層において、「外出時に困ることがある」との回答は一定数存在し、高齢者の買物や通院、通学者の通学等の日常生活における移動手段を確保していくことが必要です。
- ・老年人口は増加傾向にあり、高齢になっても自家用車を手放せず将来の移動に不安を抱える高齢者が増える可能性があることから、車両のバリアフリー化や待合環境の整備など利用しやすい交通環境の整備が必要です。

課題⑤：公共交通利用への転換・利用促進

- ・市内には、高速バス、市巡回バス、タクシー、市民病院シャトルバス、患者輸送車等の多様な交通システムが運行しているが、それぞれの乗り継ぎなど快適に利用できない状況となっています。交通機関同士の連携を行うことで、乗継利便性の強化や情報の一元化等を通じ、利用しやすい地域公共交通体系の構築が求められます。

課題⑥：多様な地域公共交通の連携による利便性の向上

- ・市内の各エリアにおいて、施設の配置や人口規模・高齢化率等の特性が異なることから、地域ごとの利用特性や課題を考慮し、ニーズ把握を行った上で、最適な公共交通サービスを見極めることが重要です。
- ・既存路線を基本としつつ、利用ニーズと合っていない地域に対してはデマンド交通等のサービスの検討、既存の地域輸送資源の活用、既存路線をもたない山間地域での移動手段の確保等、多様な手段を検討していく必要があります。